



# Enzo Mari e diecimila milioni di alberi di sugi

エンツォ・マーリが取り組む100万の1万倍もの日本の杉の木 ENZO MARI AND TEN-THOUSAND MILLION SUGI TREES

プレス・リリース

2005年4月28日

## エンツォ・マーリと飛騨産業のコラボレーションによる 家具の新ブランド“HIDA”

－ミラノ・トリエンナーレでの展覧会のご報告－

飛騨産業株式会社(本社:岐阜県高山市、社長:岡田賛三)は、2005年4月13日より19日まで、イタリア工業デザインの殿堂、ミラノ・トリエンナーレにて、エンツォ・マーリ氏とのコラボレーションによる新作家具“HIDA”の発表展覧会を開催し、大好評のうちに終了しました。

### 展覧会詳細

- 展覧会タイトル : Enzo Mari e diecimila milioni di alberi di sugi  
- エンツォ・マーリが取り組む100万の1万倍もの日本の杉の木 -
- 内容 : 家具の新シリーズ“HIDA”のプロトタイプ約20点を展示
- 会場 : La Triennale di Milano (トリエンナーレ)  
住所: Viale Alemagna, 6 - 20121 - Milano - Italy
- 来場者総数 : 約10,000人 (2005年4月13日-19日 計7日間)
- プレスプレビュー参加者数: 約120名 (2005年4月12日 11:30 a.m.より、約1時間半開催)

毎年身動きの取れないほど人が押し寄せるトリエンナーレのオープニングパーティ。今年は“HIDA”の招聘により飛騨高山の和太鼓公演が行われました。威勢のいい掛け声と太鼓のリズムに、野外のステージは瞬く間に観客で埋め尽くされ、トリエンナーレの一週間は大喝采で幕を開けました。

床まで一面白で覆われた“HIDA”展覧会場では、オープン前日、トリエンナーレの館長の一言がきっかけで、来場者に靴を脱いで入場して頂く事に急遽決定。スタッフの間には戸惑いの色が現れましたが、当初の心配をよそに、会場では来場者の多くにスムーズに受け入れられました。日本古来の建築美をも思い起こさせる、余計な装飾を押し凍とした美しさを漂わせる会場構成を高く評価したトリエンナーレの館長に、訪れる人々が自然に共鳴したのかもしれませんが。穏やかなムードの中、いつまでも作品に見入る来場者やソファに座って寛ぐ人の波が途切れず、会場は常に静かな熱気に包まれていました。入り口に夥しく並んだ靴を撮影していく海外のプレスの姿も目立ちました。

開期中、会場には数多くの有カジャーナリスト、著名建築家及びデザイナーの来場を迎え、文字通り世界のデザイン界の注目を集める展覧会となりました。



# *Enzo Mari e diecimila milioni di alberi di sugi*

エンゾ・マリーが取り組む100万の1万倍もの日本の杉の木

ENZO MARI AND TEN-THOUSAND MILLION SUGI TREES

このミラノでの成功をきっかけに、新ブランド“HIDA”は、今後 7 月 27 日－31 日の 5 日間、スパイラル(東京・青山)にて初の日本国内巡回展を開催、その後世界に向けて販売を開始する予定です。

ご来場頂きました皆様には、遠いミラノの地までわざわざ足をお運び頂きました事、この場を借りて改めてお礼申し上げます。今後とも“HIDA”を何卒宜しくお引き立ての程、お願い申し上げます。

## 【問合せ先】

HIDA / マーケティング & コミュニケーションオフィス 担当: 中嶋、中村

東京都港区南青山 7-4-22 カンファウス 4F

tel: 03-5778-4881 / fax: 03-5778-4882 / e-mail: [office@em-hida.jp](mailto:office@em-hida.jp) / [www.em-hida.jp](http://www.em-hida.jp)